

アフリカのエイズとカトリック

www.mercatornet.com (2005年6月2日)に掲載された記事の中で、Michael Cook は、カトリック教会はコンドームの使用を禁じることでアフリカでのエイズの蔓延を助長しているという批判に答えている。

クックは、アフリカのカトリック信者が、教皇が禁じているという理由でコンドームを使わないという議論の矛盾を指摘している。もしそれが正しいならば、「アフリカの信者は（教会の教えに反して）配偶者以外の異性と交渉を持つ、あるいは売春婦を買うようなことをしながら、その際に白人の教皇が禁じているという理由でコンドームを使用しないほど素直な信者であるということになる。・・・コンドームの使用に関しては教会の教えに忠実な信者でありながら、性の誘惑に対してはそれほど不忠実であるということがあるだろうか」。

「カトリックがエイズの伝播を助長しているという議論を論駁するには、エイズ患者の分布を示す地図とカトリック信者の分布地図を見比べるだけで足りる。エイズ患者が人口の42.6%を占めるスワジランドでは、カトリック信者は5%。患者が37%のボツワナでは、信者は4%。患者の割合が22%の南アフリカでは、信者は6%。それに反して、カトリック信者が人口の43%を占めるウガンダでは、エイズ患者は成人人口の4%である。

患者の世話について言えば、「エイズ患者の治療に当たっている病院施設の27%が、カトリック教会の組織かカトリック信者たちが立ち上げたNGOのものである。これらの組織はアフリカに広いネットワークを持っており、それによってもっとも貧しい人々、最も遠隔の地に住む人々、ほとんど忘れられた人々も対象に入れている」。

ACEPRENSA,77/05、(2005年6月22-28日)